

平成24年度第5回石狩市行政改革懇話会議事録

日 時：平成24年2月28日（木） 14：00～15：00

場 所：石狩市役所5階 第2委員会室

出席者：次のとおり

委 員			職 員	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会長	辻 正一	○	(事務局) 総務部長	佐々木隆哉
副会長	松尾 拓也	○	(事務局) 総務部職員・行政改革担当課長	我妻 信彦
委員	永山 隆繁	○	(事務局) 総務部職員担当主査	青木祐一郎
委員	能村久美子	○	(事務局) 総務部職員担当主査	古屋 昇一
委員	浅井 秀樹	○		
委員	西野 悦子	欠		
委員	菊地ひろ子	○		
委員	三上 嗣子	欠		

傍聴人：なし

【辻会長】

本日もお集まりいただき、ありがとうございます。

さて、本日は、纏めではありますが、お手許にたたき台を用意いたしましたので、ご覧いただきます。若干説明させていただきます。

報告の様式は、過去のを参考にしてお手許のような姿といたしました。

「1 結論」は、前回の皆様のご意見を踏まえ、「この程提示された第2次実施計画の内容は適切である」と致しました。“適切”という言葉が適切なのか、ご検討ください。

次に、全体的な総括として（1）から（3）を上げました。

（1）は、第1次実施計画の進捗状況についてであります。 「未着手のものがあるものの、相応の進捗が認められる」と致しました。 “相応”と言う表現が良いのか、このあたりは是非ご意見をいただきたいところです。

（2）は、第1次実施計画において第2プール或いは第3プールに分類した事項について順次第1プールに移行してゆくという点では、必ずしも十分と認められませんので、そのことに触れました。

（3）は、今年度前半に提出いたしました各委員のレポートの取り扱いについてですが、

「採り上げられた」とか「採り上げられない」等、いわば盛り込まれた量を以て評価する表現は避けました。その理由は、第1に、そもそもレポートを提出した趣旨が、あくまでも庁内の行政改革本部の策定の参考材料にさせていただくということであり、従って、懇話会として、沢山採り上げられたから良いとか、少ないからダメというような基準で評価することは、当初の趣旨に照らして適切ではないこと。第2には、細部の具体的な提案について、今後の検討を待つものが少なくないこと。しかし、行政改革本部が主体的にご判断いただいた結果であり、それについて、いちいちの議論はしない、というのが我々の当初からの構えですから、その様な論評は避けるべきであると考えました。それらは、この後も含めて、行政改革を進める際の参考にしていただければ良いと考えます。

とはいえ、示された第2次実施計画を見て、「レポートを提出した甲斐はあった」というのが、前回懇話会の皆さんの発言に見られる受け止め方です。その気持ちは、是非、表現したいと考えました。「感謝」という言葉が良いのかなどについては、ご意見をいただきたいところであります。

次に、付帯意見として3点を上げました。

このほかにも、能村委員他から「働く立場からの再任用制度のあり方」「地域情報ネットワークのあり方」、菊地委員他から「残業管理の考え方」、浅井委員他から「証明書発行拠点の問題」などの提起がありましたが、いずれも、市役所関係部において、既に問題意識を持って取り組まれていることが説明されましたので、改めて報告書に採り上げることは避けたところで。事務局から、関係部に対し、議事録を通じて懇話会の発言の趣旨をお伝えいただき、ご処理いただきたいと考えます。

また、実施計画の「取り組み事項の内容表現」「進捗状況評価のありかた」などの指摘がされましたが、議論のなかで、事務局には十分ご理解がいただけたところと考えますので、第2次実施計画を確定するまでに、事務局において今一度点検していただくことと致したいと考えます。

以上であります。どの部分からでも、或いはこのたたき台を離れても結構ですので、特に指名は致しませんので、ご自由にご発言ください。

【永山委員】

2－（3）の“感謝”とは？

【辻会長】

われわれのレポートを何項目採り入れていただいたというのではなく、真摯に採り上げていただいたことに“感謝”するという意味です。内容はよろしいでしょうか？問題は表現ですね。

【松尾副会長】

率直な感想から申し上げますと、“感謝”という表現でよろしいかと思います。レポート内容を実施計画に採り入れることを要請したのではなく、参考にさせていただくために提出したものですので、それをかなり検討いただいて、採り入れられるものは採り入れていただいた、汲んでいただいたということですので、我々としては気持ちを表現する記述になるかと思います。

【辻会長】

よろしいでしょうか？

【一同】

はい。

【辻会長】

“相応”はいかがですか？

【松尾副会長】

未着手の項目もありますので“相応”でよろしいかと思います。

【我妻課長】

未着手の項目があることは私たちも認識しておりますので、そのようなニュアンスが伝わる表現だと思います。

【永山委員】

“相応”でよろしいのではないのでしょうか。

【辻会長】

付帯意見についてはいかがですか？

【一同】

よろしいです。

【辻会長】

では、これで確定させていただきたいと思いますがよろしいですか。

【辻会長】

では、大変僭越ですが、これを以て、事務局に日程を調整していただき、懇話会を代表して私から市長に提出させていただきます。

なお、事務局をお願い致しますが、第4回・第5回の議事録と併せ、第2次実施計画の確定版が出来ましたら、各委員に送付いただきたいと存じます。

【辻会長】

以上で、議事はすべて終了いたします。

今年度の懇話会はこれで終了です。そこで、最後に、それぞれのお立場で、何か感想のようなものでもお話をいただければと思うのですが、なんでも結構ですので、如何でしょうか。やはり副会長からお願い致します。なお、先般も一度ご挨拶をいただいておりますが、松尾さんは今回を以て当懇話会は退任されますので、よろしければそのことも含めて、どうぞ。

【松尾副会長】

この度、わたくし松尾拓也は任期半ばではございますが、当行政改革懇話会副会長および委員の職を辞させていただくことにいたしました。

先だって当懇話会の皆様にはご報告申し上げたところですが、私昨年の10月より市教育委員会の教育委員に就任しております。

この二つの職を兼ねることに対し、明示的に禁止する規定等はないようでございますが、教育委員は非常勤とはいえ本市の教育行政に責任を有する立場であり、またこの行政改革懇話会は教育行政も含む市全体の行政活動について提言を行う立場であることから、この二つの職責を重ねて務めるのは、その職務の性格を考え合わせた場合望ましいことではないという判断によるものです。

なお、辞任の時期については辻会長ともご相談申し上げ、当懇話会の議論に極力影響を及ぼさない時期ということで、年度末のこの会議をもって退任させていただく運びとなりました。

思い起こせば、委員としては3期5年、副会長としても2期3年を過ごさせていただきました。この間、当懇話会としても活発な議論をつみ重ねてまいりましたが、本市の行革への取り組みとしても様々な紆余曲折があったように思います。当懇話会を所管していただく事務局自体が、所管部の変更を重ねました。取り組みが二転三転したことも無しとはいたしません。

しかし、本市の行革は着実にその歩みを進めつつあると、この5年間行革に関わり続けてきた立場からも申し上げたいと思いますし、この流れを元に戻すことはできないのだらうと考えます。

委員の皆様におかれましては、今後も活発なご議論をいただき、本市の行革の歩みをさらに進めていただきますようお願い申し上げます。これまで、皆様との建設的かつ真摯な議論を通じ、本市の行革についていくつもの有益な提言や答申を行うことができたと考えております。ありがとうございました。

また、歴代の事務局の皆様に対しましては、これまでのご助力に感謝申し上げます。率直に言って、いつも難しい注文ばかりつける扱いにくい委員であったかも知れませんが、皆様の適切なサポートをいただき、なんとか委員として務めることができました。ありがとうございました。

そして辻会長におかれましては、特にお名前を挙げさせていただきますが、この5年間の間に本懇話会を取り巻く顔ぶれが変わっていく中、常に一緒に行革のお仕事をさせていただきました。さらに後半の3年間は副会長として務めさせていただきました。本来副会長として期待されるべき、会長の補佐役をうまく勤められた自信はございませんが、微力ながらも委員として、副会長として、それなりに務めてくることができたのは、辻会長の絶妙なリードの賜物であると確信しております。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

私自身、想いを残しながらの、任期半ばでの辞任であります。皆様にご迷惑をお掛けすることに対してはお詫び申し上げるほかございませんが、今後の行政改革の進捗を、これからは一市民として見守ってまいりたいと存じます。

本日まで誠にありがとうございました。

【辻会長】

ありがとうございました。永山委員、お願いします。

【永山委員】

今回の石狩市行政改革 2016 に関連しまして、ほかの審議会ではなかなか無いのではないかと思います。委員がレポートをまとめました。レポートをまとめたのも素晴らしいことですが、それにきちんと取り組んでいただいた市も素晴らしかったと思います。また、今回の方式は審議会の一つの取り組み方となったのではないかと思います。

ただ、行革は常に市民目線で前に進んでいかなくてはいけませんので、特に私としては、若い職員の声を中心にして市全体を盛り上げ、動いていくことが必要ではないかと思います。

以上です。

【辻会長】

ありがとうございました。能村委員、いかがですか。

【能村委員】

レポートを提出するという活動に携わって感じたのは、積極的に参加し、具体的な一歩を踏み出すことで成果が出せたのかなと思います。審議会の新しい形を打ち出せたのかなと思います。大変な審議会でしたが、成果も身近に実感できるものでした。新しいことをしようと投げかけた会長、副会長も素晴らしいですし、それを受けとめた事務局も素晴らしいなと思います。また、これに満足することなく、これでいいのかなという気持ちを持ちながら進んでいかなければならないと思います。私としては、一市民としてではなく委員として参加できて、積極的に考えそして反映させていただける機会をつくっていただいたということも良かったです。残りの1年も大事にしたいと思っています。

以上です。

【辻会長】

ありがとうございました。浅井委員、よろしくお願いします。

【浅井委員】

今年度の懇話会は前年度より開催回数は少なかったですが、そのなかでも最大限有意義な活動ができたのではないかと思います。

レポートの提出で、委員それぞれが能動的に活動する審議会のあり方を示し、しかもそれなりの結果を出したということで、非常に意義深い1年だったのではないかと思います。

個人的に感じるのは、もう何人か委員を増やしてもいいのかなと思います。いま在籍の委員は花川地区に居住している方ですので、次期は厚田や浜益の方にも委員として参加していただきたいと思います。

以上です。

【辻会長】

ありがとうございました。菊地委員、お願いします。

【菊地委員】

私は初めての参加ですが、石狩市は素晴らしい取り組みをしているのだなと思いました。このような行政改革に市民が参加し意見を取り入れながらすすめているのを知りまして、当初は、あらかじめ決められたなかで進んでいるのかなと思いました。役所は役所のご苦労もありながら決められた予算を配分しつつ、市民生活を豊かにするためにさまざまな施策を行っていることが理解できました。

市を豊かにするためには、市政に求めるだけではなく、我々民間も納税する義務者として、企業活動を一生懸命に頑張って納税することを心がけていかなければならないと感じました。

我々の業界には4千万円を納税することを目標に経営されているクリーニング会社があります。

本州のその会社の社長さんは、それが生きがいだということでした。

高級車を買うより納税が先で、このまちを豊かにすれば市民も暮らしやすくなり、町が活性化して、環境も良くなる、そうすると住民が増える。やがては、自分のお店のお客様になって、利用して頂けるというのです。

そのほかにも、街を発展させるには、ただ商売するのではなく、納税を義務として働くことであると説かれた社長さんが多数いらっしゃいます。

何を縮小し節約しなければならないか、市が豊かになり住民が増えるように、そして「石狩市っていい街だね」と言われるように、今後も展開できたらいいと思います。

札幌から来られる方には、石狩市は除雪が行き届いていると褒められますし、図書館も石狩市民のみならず市外の方が多く来ていただいています。

私どもは札幌市を中心にお仕事をさせていただいており、取引先からは「石狩市は何よりお祭りが楽しみなので今度ぜひ案内して欲しい」とよく言われます。

「石狩市っていい街だね」とわれわれ市民がどれだけ感じているか、これもすべて市の努力だと思いますし、そして、もっともっと発展的に広がっていくことを望みます。

以上です。

【社会長】

ありがとうございました。

では、私からも1年を振り返って感想を申し上げて終りと致します。3点申し上げます。

第1点は、ローリングプラン方式の1年目でしたが、不慣れもあり結構忙しい思いをしたわけです。しかし、そもそも行政改革はエンドレスであり、また、日常的なものでもあります。つまり、特別な仕事ではなく日常の仕事への取り組みの中で進められ、進化させてゆくものです。常に行政改革を考えながら仕事を進めるための一つの仕組みとして、ローリングプラン方式が定着できればよいと考えています。まだまだ未成熟ですが、来年度あたりで慣れてしまうのでないかと期待いたしております。

第2点は、アベノミクスのなかでも唱えられている「イノベーション」ですが、そのためには、異質な意見というものが大切になると考えます。例えば、産業競争力会議などの様子を見ても、政府サイドで準備されることと、民間委員サイドの発言では相当のギャップがあります。どちらが正しくてどちらが間違いということでは無く、異なる立場、異なる意見があって、それが化学反応を起こした時に「イノベーション」と呼ぶに相応しい成果が生まれるのだというのが私の持論でもあります。その点で、我々懇話会は、今後とも市民感覚で率直な発言をすることが、いささかの役に立つ道に繋がるのだと考えています。

私は、この懇話会と行政との関係は「容易に妥協しない、しかし、真の意味の行革パートナー」でありたいと考えています。今年度は、委員それぞれの立場で「レポートの作成」

など、前例のない取り組みをお願いいたしました、それなりの成果に結びついたと存じます。各委員のご努力と事務局のご配慮にお礼を申し上げます。

第3点は、当初予定した今年度のマイルストーンが、いささかの先延ばしをすることもなく順守できたことを、大変有難く思います。

お蔭様で、本日の報告の後、事務局の微調整を終えて庁内の本部会議を経て確定されるのであろう第2次実施計画は、平成25年度4月1日から取り組みをいただくことが出来ます。この点では、我々委員も頑張ったと思いますし、併せて、庁内の関係各部を督励しスケジュールを守っていただいた事務局には心からの御礼を申し上げます。

重ねて申し上げますが、微力な会長をお助けいただいた委員の皆さんのご支援を感謝いたします。ありがとうございました。

【佐々木部長】

わたくしから一言申し上げさせていたいただきたいと思います。

われわれにはあまりなじみのないローリング方式を取り入れたこの石狩市行政改革 2016 ですが、その1年目としてどのような通信簿がいただけるのかと、内心ドキドキしていましたが、相応の進捗が図られたという評価をいただきまして正直ほっとしております。

皆様のお話にもありましたが、各委員がグループでレポートを提出していただくという、意欲的な取り組みをしていただきました。そのなかでは相当な苦勞もされていたのだろーと思ひますし、正直申し上げますと、そういったご苦勞に私どもがどれだけお応えできるのかという不安があったことは否定できません。しかしながら、先ほど、レポートを出した甲斐があったというお言葉をいただいて、私どももうれしく思っております。このような感激を行革本部会議にも伝えていきたいと思っております。

わたくしにとって1年目の行革懇話会であります、毎回新しい発見や刺激を得られる貴重な場であったと感じております。

本日も菊地委員のお話にありましたように、行革というどうしても何かを削っていくというイメージで考えがちですが、実はそうではないと思ひます。新しいニーズに答えていくためには身軽にならなければならない、削った後で何をするのかというのが大事だと思っております。

今回ローリングによって第3プールにあった項目が、第2プールに上がることが比較的多かったので、来年はこれをきちっと第1プールに上げていくように、また、それ以外にも新しいメニューを第3プールから第2プールに出してくるというように、着実に進めて参りたいと考えております。辻会長のお話のとおり、行革が日常のものであるという行革マインドをもっともっと庁内に浸透させていきたいと事務局としては感じているところでございます。

任期2年ということで皆様方にはあと1年お世話になります、よろしくお願ひいたします

す。また、松尾副会長におかれましては3期5年にわたりありがとうございました。色々
といただいたご意見などを踏まえてもっともっとよりよい石狩市政を実現して参りたいと
思っております。どうもありがとうございました。簡単ですがお礼の言葉とさせていただきます。

【辻会長】

佐々木部長、ご丁重にありがとうございました。

それではこれで終わらせていただきます。本当にお疲れ様でした、ありがとうございました。

【閉会】

平成25年3月18日 議事録確定

石狩市行政改革懇話会 会長 辻 正一